

## 『深浦円覚寺所蔵古典籍調査報告書』第四集刊行によせて

弘前大学深浦エコサテライトキャンパス所長

弘前大学 理事（社会連携担当）・副学長 石川 隆洋

この度、弘前大学が連携協定を結んだ深浦町において、深浦円覚寺所蔵古典籍調査プロジェクトの成果として、『深浦円覚寺所蔵古典籍調査報告書』が令和二年度に引き続き刊行の運びとなったことを心より嬉しく思います。

深浦町と国立大学法人弘前大学は、平成二十七年五月十五日に、地域課題への対応や活力ある個性豊かな地域社会の形成と発展に資するため、相互に連携・協力するための協定を締結しました。またその連携協定に基づき、深浦町をフィールドに、弘前大学と町とが各種事業・活動を展開する「弘前大学深浦エコサテライトキャンパス」を開設することに關する覚書を締結し、平成二十八年五月二十日に弘前大学深浦エコサテライトキャンパスを開所しました。以来、様々な講義や事業を行いながら、深浦町との連携を深めているところです。

さて、深浦円覚寺古典籍調査プロジェクトは、この弘前大学深浦エコサテライトキャンパスの開講式に行われた第一回公開講座での、前弘前大学人文社会科学部・渡辺麻里子教授（現・大正大学教授）による円覚寺の歴史と文化財についての講演に始まります。開講式準備のための私どもの訪問がきっかけとなり、円覚寺に多くの古典籍が所蔵されていることが判明、以後、様々な調査の展開に加え、一般市民に対する講演会を実施して参りました。

深浦町と弘前大学の連携によって、このような深浦町の歴史や文化の地域資源を掘り起こせたこと、深浦町民や木造高校深浦校舎の生徒さんたちも協働する調査へと発展し、人材育成や町の地域活性化につながる展開ができたことは、社会連携・社会貢献の観点から非常に意義があり、弘前大学深浦エコサテライトキャンパスの設立の目的にもか

ない、誠に喜ばしいことです。

弘前大学は「世界に発信し、地域と共に創造する」をスローガンに、研究の知見を生かして地域に還元することを目的に様々な地域連携を進めております。深浦町における本プロジェクトの推進により深浦円覚寺所蔵の古典籍が青森県の貴重な文化財として県重要指定を受けたことは大変喜ばしいことです。そして、まだまだ調査が必要な資料が多く存在することですので、今後は様々なアプローチにより、弘前大学と深浦町民が協働して調査を進めていければと考えております。

最後になりますが、令和二年度に引き続き令和三年度においても、青森学術文化振興財団からの助成を受けることができ、本報告書の刊行に至りました。今後さらなる成果を期待しつつ、ますます深浦の地域活性化に尽力し、深浦町と弘前大学との連携を深めていきたいと思っております。これをもちまして、御礼かたがた、ご挨拶とさせていただきます。

(令和四年一月吉日記)